



ぽっぽ屋



輸送サービス労組 東京支部

2025.3.26
No. 101

これが安全をトッププライオリティと豪語している現実

国府津車両センター構内にて 団体臨時列車ツアー参加者に 保護具を着用させず 線路内に立ち入り撮影会！

JR東日本はグループ経営ビジョン「変革 2027」を発表以降、言葉巧みに「融合と連携」を打ち出し、新たな価値創造としてこれまでにない企画を展開しています。しかし、利益を優先するあまりトッププライオリティである「安全」を脅かす事故・事象が相次ぎ発生しています。3月23日から開催された熱海駅開業100周年団体臨時列車ツアー宿泊プラン2日目で、参加者に安全チョッキやヘルメットなどの保護具を一切着用させず車両センター線路内に立ち入らせ車両の写真撮影を行う事象が発生しました。過去の事故・事象の教訓として、運輸職以外の社員が線路内に立ち入る際に保護具の着用が必須であることは「触車事故防止手引き」にも記載されています。また、現場には管理者を含め多くの社員がいながらも誰一人として保護具の着用を指示しておらず、過去の事故・事象を他人事として捉えていたことは言うまでもありません。

「グループ安全計画 2028」では「本質をふまえ、想定外を創造して安全を先取る」と謳われていますが、現在の JR 東日本は偶然の成功例に満足するだけであり、思考停止状態に陥っています。現場で働く私たちが声を大にして訴えなければ「いのち」を守ることはできません。安全軽視・利益優先の経営姿勢を糾し、私たちから鉄道の安全をつくり出しましょう！